

長野県社会福祉士会 NEWS

第181号
2020/11/1



発行▶公益社団法人長野県社会福祉士会
会長 萱津 公子
事務局▶〒380-0836長野市南県町685-2
長野県食糧会館6F
編集▶広報編集委員会
発行部数▶2,400部

TEL▶026-266-0294 FAX▶026-266-0339 E-mail▶info@nacsj.jp HP▶<https://nacsj.jp/>

コロナ禍における学びの創意と工夫 1
2020年度 新型コロナウイルス対応下の研修事業の展開 2~3
新型コロナウイルス感染症対策と地区活動、学習会の状況について 3

contents

長野県社会福祉士会 中期ビジョン「笑顔をつなぐ」への取り組み 4~5
特集「社会福祉士の“実習指導者”を紹介します」 6~7
リレーエッセイ、信州ぐるっと!!、編集後記 8

コロナ禍における学びの創意と工夫 —専門性を高めるために—

中 村 英 三 氏 (元本会外部理事/長野大学・学長)

令和2年の年明けから、日本社会はもとより世界中に新型コロナウイルス感染症が蔓延して、私たちの生活様式・社会構造の変化等をはじめ、日々緊張しながらの生活が長く続いております。

季節的には少し秋らしくなってきましたが、大学生は夏休みが終わり後期授業を開始しました。とはいえ、今年の新入生は特にですが、入学式もなく自宅に待機状態で授業はオンラインであり、大学構内には入れない状態が前期まで続きました。一緒に入学した同期生はどんな人か、サークル活動はどんなことがあるのか、先生はどんな人がいるのか、関心を持つことに対して全くかかわることができない不安からのスタートでした。また、県外からの学生は一部アパートを借りて生活していますが、精神的に病んでしまう学生も出て注意しています。

大学の授業は、オンラインで実施を始めました。これは、教員も学生も不慣れな状態で、特に教員は対面授業と比較して、授業の準備に相当の労力を費やしますが、学生のために創意と工夫をしている教員の姿を見聞きしております。特に、社会福祉学部では専門性を高めるための授業が多く配置されておりますので、学生にとって有効であります。

さて、学生に対しての対応として長野大学では、新型コロナウイルス感染防止徹底のため、前学期は学生によるキャンパス内の施設利用の範囲や時間を制限しておりました。後学期からは段階的に利用制限を緩和していく方針です。10月1日以降、対面授業を受講するために大学に来た学生が、キャンパス内で滞在できるようにするため、学生食堂、図書館の利用を認めることとし、キャンパスライフの範囲を拡大しており、

学生の笑顔や楽しそうな会話も見えるこの頃です。

一方、授業料に関しましては、学修・生活環境の変化が家計に深刻な影響を及ぼしている中、学生とその生計維持者の経済的負担を軽減するため、令和2年度後学期授業料等について「教育充実費」相当額に当たる6万円を減免する手続きを行いました。

本事業は、設置者である上田市から3分の2の補助金を受けて実施しました。この件については、市議会からもご心配いただき、学生にとって少しでも役立つことができることを検討し、実施をいたしました。

今年の新入生は4月にガイダンスができなかったもので、後学期の始まる9月下旬に改めてガイダンスを行い、私も各学部ガイダンス会場に出向いて、新入生に対して「歓迎のあいさつ」を行い、初めて新入生の姿を見ることで、新たに学生を迎える実感をえました。最近ではキャンパス内に学生が戻りつつあり、学生と話をすることがありますが、前期の生活の様子を聞くと、皆ここまでよく頑張ったという印象です。本学社会福祉学部は、実習が必須であります。この状況下で、実習生を受け入れていただいた事業所には、感謝いたします。大学としては、実習のことが大きな課題となっております。本学福祉実習室を中心に実習先様と綿密な情報交換をして、受け入れの厳しい中、ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の終息には至らない現在ですが、多様な生活状態の中で生活に困窮する対象者も多様化しているのではないのでしょうか。社会福祉領域において要となる社会福祉士の皆様のご活躍を期待します。

2020年度 新型コロナウイルス対応下の研修事業の展開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、2020年度上半期の研修会やセミナー、地区学習会などは、下半期への延期やオンラインでの研修会や学習会に取り組んでいます。

また、社会福祉士基礎研修Ⅱ・Ⅲのように通年での研修は中止にせざるを得ませんでした。次年度開催に向けて準備を開始しました。ここでは、初のオンライン研修などの取り組みを紹介します。

研修・セミナーなどのガイドラインについて

長戸 桜子 (生涯研修センター長)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は世界中でいつ収束するのか、先の見えない不安を抱えています。日本でも4月に緊急事態宣言が発令され、感染拡大防止のために3密を避け、新たな生活様式が求められています。このような状況において、長野県社会福祉士会では、「会員の学びの機会を止めない」ために、新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインを作成し、オンライン研修に切り替えるなどして研修を実施してきました。

感染予防のため、身体的な距離 (physical distance) は取りつつも、心の距離は離れることなく、学びを続けられるような研修会や学習会を開催していきたいと思えます。

「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」や「新型コロナウイルス感染症対策実施チェックシート」は、長野県社会福祉士会のホームページ内、「本会について」→「情報公開」のコーナーに掲載しています。

新型コロナウイルス感染症対策実施チェックシート

令和2年8月現在 長野県社会福祉士会

【開催前】

- 会場は、「3つの密」(密接・密集・密着)を避けるため、収容率は50%とし、換気ができ、可視視界が確保された会場を要する。
- 集合以外の方法を駆使して、集合調整の開催時間必要最小限に設定する。
- 出席者の感染対策を履歴の上、それに合わせた対応を行う。

【開催時、参加者へ提供する】

- 事前の感染対策を徹底し、中止となる可能性がある上、状況に応じて、オンライン研修に切り替える時は研修者と受講者までホームページに掲載すること。
- 2週間以内の予定に該当する人は参加できないこと。
- 新型コロナウイルス感染者が多い地域へ避けた。
- 前年度にオンライン研修参加者数が増えたと見られている、長期研修参加者に限した。
- 新型コロナウイルス感染者が多い地域から参加制限など必要な感染対策を実施しては5分以上経過した(国境の現状や感染状況から総合的に判断)。
- 新型コロナウイルス以上の発熱や咳・喉炎又は動脈硬化。
- 長野県内研修会参加者には感染防止指導書。
- 当日、発熱や咳などの症状や体調不良、体調がすぐれない人は参加できないこと。
- 集合調整中は必ず、マスクを着用してもらうこと。
- 研修中に必要な物品や飲料による感染対策として上着などの着脱を各自でしてもらうこと。
- 前年度にオンライン研修会場の有無を必ず確認すること。
- 当日の緊急連絡先を確認しておくこと。

【開催後】

- 入場前の準備と検温
- 事前研修参加者及び受講者マスク、非接触型体温計を準備する。
- 参加者の体調及び連絡先を再確認する。
- 会場入口に感染予防に関する案内を掲示する。

【その他】

- 入場時の検温など、ドアノブ等に接触しに限りできないようにする。
- 2方向以上、足を開く。また、10分以内(最低1時間以上)は検温する。
- 人と密着させない(1m以上2mの間隔)を要する。

【参加者へのお願い】

- マスクの着用を徹底する。
- 会場に入る前の手洗いや手指消毒の実施ならびに研修の進捗に対して迅速な返信を呼びかける。
- 感染者が出た場合は研修場の消毒のもと、その他の参加者に連絡を取り、症状の確認など迅速に協力するように依頼する。

【終了後】

- 靴、椅子、手すり、ドアノブ等を消毒する(消毒薬をつけたペーパータオル等で拭き取る)。

社会福祉士 基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

矢澤 秀樹 (生涯研修センター運営副委員長)

基礎研修は、入会後最初に履修し、社会福祉士会や生涯研修制度についての理解、社会福祉援助の共通基盤を押さえながら基礎的な実践力を担保するとともに、専門職としてのアイデンティティの形成をねらいとした重要な研修です。グループで行われる研修を通じて、県内の社会福祉士とのつながりをつくることも目的となっています。

ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症により集合が困難となり、どのようにグループワークを含めた研修を開催していくのか、講師同士の打ち合わせもままならず、認定社会福祉士認証・認定機構からのオンラインでの開催許可が下りたのも遅く、事前課題も多いⅡ・Ⅲの今年度の開催は日程的に難しく、中止とせざるを得ませんでした。基礎研修Ⅰは10月3日にオンライン研修で1日目を終了しました。

来年度の研修について、認証・認定機構からの方向性は示されていませんが、本会としては、来年度の基礎研修Ⅱ・Ⅲも開催に向けて準備を進めています。

キャリア形成訪問指導事業 (長野県からの補助事業)

青木 靖志 (生涯研修センター運営委員長)

長野県では、令和2年度のキャリア形成訪問指導事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施が延期されていましたが、令和2年7月1日から、事業が再開されました。しかし、落ち着くかに見えた感染状況も、7月29日には全県に対して注意報が発出され、8月4日には3圏域で警報が、そして8月28日には上田圏域でレベル4まで引き上げられるなど、予断を許さない状況もありました。この間も含め現在まで、キャリア形成訪問指導事業の申し込みは36件あり、このうち16件は既に実施されています。

当然のことながら、感染対策を講じての実施となりますが、参加人数を制限し研修は録画して、当日参加できなかった方にはその録画を視聴していただくなど、それぞれ工夫しながら行われたようです。講師の皆さんや事業所の担当者の創意工夫に頭が下がる思いです。

2020年度

キャリア形成訪問指導事業

- ◆ 職員の「キャリア形成」(スキルアップ)の研修課題を派遣します。
- ◆ 派遣講師の謝金・旅費等の負担・事業所負担はありません。
- ◆ 研修テーマは、
 - 職業倫理・権利保護・虐待対応、
 - 従事している「バービジョン」等々多様です。

申し込みを
お申し込みください

公益社団法人 長野県社会福祉士会

生涯学習のスタート 目標を見失わずに共に歩く

熊谷 充子 (生涯研修センター運営委員)

昨年の研修委員会では研修開催の地理的な難しさが議題となり、オンライン学習の話題もでておりましたが、思わぬことでそれが日常になりました。



研修の醍醐味は他者との出会いにあるといえます。意見交換、共感、相違点の発見、同じ悩みを持つ仲間の前線での奮闘ぶりも大切な力の源となります。直に会うことが一番であることに変わりはないのですが、それが叶わぬ今、使い勝手の不安や一抹の物足りなさがありますが、リモートの力を借りて顔を見ながら伝えあうことに挑戦です。生涯学習のスタートはいつであっても大丈夫です。さまざまな方法を駆使しながら学びを続け、実践の場で生かすことの目標を見失わずにともに歩んでいただけることを願います。

オンライン研修で新たな光明も

蒲生 俊宣 (生涯研修センター運営委員)

県内でも新型コロナ陽性者が増え、市町村を跨いだ移動すらも憚られるような状況の中、7月19日に『Zoom』で研修委員会が開かれました。県内各地からオンライン上に委員が集まり、この状況下でどうすれば研修機会を確保できるのか議論しました。集合せずに講義が受けられ、グループワークが行なえる方法として、『実習指導者講習会』を完全オンライン(Zoom)でチャレンジしようという結論に至りました。先日、地区の老人会長さんの言葉を聴く機会があり

ました。「新型コロナは肺炎のウイルスじゃなく、人と人とのつながりを断ち切るウイルスだね」と。まさにそのとおりだと思いました。社会福祉士にとってつながりが寸断されるのは致命的です。しかし今回Zoomを活用した講習会を行なったことで、県内各地の社会福祉士、さらには四国や北陸の社会福祉士ともつながることができました。新型コロナは確かに難敵ですが、それに対抗するための光明も見えたと感じた今回の講習会でした。

新たな学ぶ機会のチャレンジに晴々とした姿が

長坂 好 (生涯研修センター運営委員)

去る8月29日・30日にZoomのオンライン社会福祉士実習指導者講習会の裏方として運営に携わりました。オンライン研修という聞き慣れない試みに対する不安よりも、やっと研修が始まるという安堵感を強く持ちました。それは、ここ数ヶ月新型コロナウイルス感染拡大防止のため各種研修などが見送られ、この先どうなることかと先の見通せない点にもどかしさを感じていたからです。

今まで日常的に地域の協議会や自主的な集まりに参加する中で情報交換することで自分たちの仕事の方向性を再確認してきたところがありました。新たな学ぶ機会にチャレンジする研修参加者の表情には、慣れない研修方法への緊張もありましたが晴れ晴れとしたものを見て取れたように思います。今後運営スタッフや参加者の意見交換などでますます良い研修スタイルができてくることと思います。



新型コロナ感染症対策と地区活動、学習会の状況について

田中 雄一郎 (理事・中信地区支部長)

中信地区では、2020年度事業計画のなかに、学習会などの開催と会員間や地域住民とのネットワークづくりを掲げました。

対面での活動が制限されている中、学習会については8月よりオンラインで開催をしております。8月はコロナ禍における会員の現状報告を行っていただきました。9月には社会福祉士養成検討プロジェクトの中間報告と、実習生を送り出す養成校に所属している会員のお話を聴きながら、社会福祉士実習の現状について学びました。

オンラインでの学習会を開催することで、子育て中の会員や今まで参加が難しかった会員の参加がある一方、ネット環境の問題で、逆に参加が遠のいている会員もいます。

地区活動を進めるためには、顔の見える関係づくりが重要です。一方で会員それぞれのライフステージに応じたネットワークづくりが大きな課題になっていると感じています。

また、中信地区では「長野県社会福祉士会中信地区メーリングリスト」を作成しております。地区学習会の案内や、会員間の連絡などに利用しています。これからもネットワークづくりのひとつとして活用していければと思います。興味のある方は「swchushin@yahoo.co.jp」までメールをお送りください。

直接顔を合わせる機会は、まだ先になりそうですが、長野県社会福祉士会に入会して良かったと思えるような地区活動を目指して、オンラインや対面を組み合わせた学習会などの企画を進めていきます。大勢のご参加をお待ちしております。



『虐待の根絶を目指し、対話と共有で組織率の向上を』

荒井俊光 (虐待対応委員会委員)

私は中信地区の虐待対応委員に就任して3年目になります。所属は大町市社会福祉協議会ですが、一昨年度から大町市直営の地域包括支援センターに出向中で、生活支援体制整備と権利擁護業務を担当し、実際の虐待対応にも携わっています。

今号の寄稿依頼を受け、虐待対応委員の視点から中期ビジョン2020を踏まえた長野県社会福祉士会と委員会のあるべき姿について考えてみました。



1. 今年度の虐待対応委員会の取組み

6月27日(土)にリモート会議による委員会が開催され、以下4事業の実施方針について検討しました。出席した委員全員が発言し、今後の取組みについての合意形成が図られました。

- ◆事業1：高齢者虐待対応現任者標準研修・弁護士会との共同研修会等の研修企画・運営
 - ◆事業2：高齢者虐待対応等の実態把握調査の検討・実施
 - ◆事業3：障がい者虐待対応等の実態把握調査の検討・実施
 - ◆事業4：キャリア形成訪問事業における資料の検討・作成
- また、弁護士会との合同による虐待対応専門職チームの派遣事業も実施しています。

2. 新型コロナウイルス感染症対策について

例年市町村職員と地域包括支援センター職員などを対象に開催している高齢者虐待対応現任者標準研修について、正副委員長と講師の委員を中心にメールやZoom会議での協議を重ね、動画配信による方法に変更し、CATV業者に依頼して撮影を行いました。初の試みでしたが、新しい生活様式において「想いを伝える」一つの手法としての有効性を感じました。

3. 中期ビジョンの4つの価値にあわせての今後の委員会の取組み

虐待対応委員として虐待への対応や未然防止について考えることで、社会福祉士としての根源的な価値である権利擁護の意識が高まります。また、社会福祉士会員である委員同士の情報交換や協力により、虐待事例への対応力が身に付くとともに、委員相互の信頼関係が構築されます。そして、委員会活動の成果を共有し、さらに改善を図っていくことで、地域社会における社会福祉士会の存在価値が高まります。

昨年12月に県内の有料老人ホームで発生した高齢者虐待事案を受け、本年1月に「高齢者への虐待防止と高齢者の尊厳保持に向けて」と題した会長声明を発信していますが、今後も委員会活動を継続し、発信していくことで、県民全体の権利擁護意識を高め、虐待の根絶を目指します。

4. 長野県社会福祉士会、委員会のあるべき姿について

私が地域包括支援センターに配属となり、右も左も分からない状況で実際の虐待対応に悩んでいた時、虐待対応委員の仲間に相談できたことで、職場での社会福祉士の役割を見出し、虐待の要因をチームで考えて対応することにつながり、その事例を終結させることができました。

今年度の虐待対応委員会での協議の過程では、それぞれの主張を述べ合う緊張感の中にも、お互いを尊重する「対話」があり、「虐待対応」に真剣に向き合う姿勢そのものを感じました。

社会福祉士会に入会し、本会の活動に参加することを負担に感じる方も多いと思います。しかし、活動を通して得られた知識と経験、そして何よりも会員相互の「つながり」は、その後の人生において必ずプラスになります。そして、本会の組織率向上は、個々の専門性を高めるとともに、委員会活動を発展させ、社会の変革をも果たす大きな力となり得ます。まずは会員・非会員を問わず「対話」で語り合い、本会の活動を「共有」しながら、組織率の向上を図りましょう。

中期ビジョン「笑顔をつなぐ」への取り組み

『コロナに負けない！！会員による会員のための会員の社会福祉士会に！！』

等々力 久 志（生涯研修センター運営委員）

1. 今年度の生涯研修センター運営委員会（以下、研修委員会）の取り組み

研修委員会では、毎年、専門職としてのスキルアップを目指し、自己研鑽を積むための研修をいくつか企画運営していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止を余儀なくされた研修がありました。ただ、オンライン研修に切り替えることで、実習指導者講習会、基礎研修Ⅰを開催しました。オンライン研修は、開催する側も受講者側も慣れておらず、とまどいはありましたが、評判は良かったです。

また今年度は、会員一人ひとりが、自身のキャリア形成やそのために必要なプロセスを見いだす指標として、新規会員に長野県社会福祉士会の研修体系を説明するために「長野県社会福祉士会活用ガイド」の作成に取り組みます。



2. 新型コロナウイルス感染症対策について

コロナ禍でも「会員の学びの機会を止めない」ことを重視し、研修委員会では、集合研修ができない場合、オンライン研修に切り替えて開催しています。そして、オンラインでも当会で開催する研修の醍醐味であるグループワークや会員同士のネットワーク構築の機会が得られる研修会を行っていきます。

3. 中期ビジョンの4つの価値にあわせての今後の委員会の取り組み

中期ビジョンでは、自己実現・自信と信頼・改善と成長・連携と共同の実現を図ることで「4つの価値」を高める良循環の構築が示されています。研修委員会としては、「社会福祉士会の会員である価値を高める」べく、

(1) 安定した研修の機会の提供

コロナ禍で研修が行われないことにより、会員のキャリア形成に影響をもたらしています。委員会として、感染拡大予防に配慮しながらどのような形で研修ができるか協議や検討をしていきます。

(2) 会の活用できる仕組みの可視化として、活用ガイドの作成

具体的には、基礎研修から専門研修や認定社会福祉士に関するガイド・説明（パンフレット）を委員会内で協議し作成していきます。これにより、研修プロセスの理解を促し、新規会員が入会の意義や入会後のキャリア形成をイメージしやすくなります。また、既会員同士の交流や研鑽の機会を促進し、会員一人ひとりの価値が高まることにつながると考えます。

4. 長野県社会福祉士会、委員会のあるべき姿について

私は、職場の先輩会員から勧められて社会福祉士会へ入会しました。当時、自身の支援が画一的で視野の狭さに悩んでいました。入会后、基礎研修があることを知り、早速申込んだのを覚えています。基礎研修は、全県からさまざまな職場で社会福祉士として活躍している方たちとの出会いでもありました。課題を通して、身に着きたい知識や視点や専門性の理解につながります。中でもグループワークは新鮮で多くの刺激を受けました。研修の3年間はとても大変でしたが、それに見合った成長と学びを得ることができたと思います。研修終了後、また先輩会員から誘われ生涯研修センター運営委員会に席を置くこととなりました。

会活動へ参加し人とつながること、自身をそのような場に置くことで多くの学びを得ることが出来ます。これらの取り組みはまさに「4つの価値」を高めることにつながるのでないでしょうか。社会福祉士会は、会員の成長や会員同士がつながる場を提供しているのだと思います。本会に所属することはとても良いことだと思います。会員自身が本会を利用し、委員会活動を通してより良い形に変えていく、これが社会福祉士会や委員会のあるべき姿だと思います。

北信地区

氏名：中野美穂
所属：社会福祉法人賛育会 豊野清風園



<Web実習を受講して感じたこと>

初めてWeb研修に参加させていただきました。機械音痴な私は、Zoomの接続や操作がスムーズにできるのか不安でしたが、事前に接続確認や操作方法を教えてください、安心して受講することができました。講師の先生方や受講者の皆さんの顔を見ながら、講義を聴いたり、ブレイクアウトルームで数名にわかれてのグループワークを通して、実習指導について具体的に楽しく学ぶことができました。県外からの受講者も数名おり、どこにいても参加できるのがWeb研修のメリットだと感じました。

<実習指導で心がけていること>

実習指導では、スーパービジョンを意図的に活用し、実習生との信頼関係を築くなかで、実習生が安心して実習ができるような環境づくりをしていきたいと思っています。また自分の相談援助についてわかりやすく伝え、ソーシャルワークについて実践と結びつけて自分の言葉で伝えていけるようになりたいです。

<実習指導のやりがい>

実習指導を通して、社会福祉士の卵である実習生が、将来社会福祉士として活躍したいと思ってもらえるようになると嬉しいです。また実習生とのかかわりのなかで、私自身が気づかされたり、学ばせてもらうことも多いと思っています。ソーシャルワークの専門職として、お互いに成長できる可能性があることもやりがいの一つだと感じます。

<今後の目標や展望>

今回の講習会で学ぶなかで、自分自身が実習指導者として、またソーシャルワークを自分の言葉で伝えていくには、まだまだ力不足だと感じました。今後は、社会福祉士会の生涯研修制度を活用したり、他の社会福祉士の実践から学ばせてもらいながら、自己研鑽を積み、自信と根拠をもって実習指導ができるように取り組んでいきたいと思っています。

東信地区

氏名：草間春佳
所属：佐久市立国保浅間総合病院



<Web実習を受講して感じたこと>

私自身も初めてのWeb研修だったので操作方法など多少不安はありましたが、自宅で受講できたためリラックスして臨めました。グループワークに関しては通常と比べて進め方や発言のタイミングの難しさがありましたが、回数を重ねるごとに慣れていけると思います。Web環境が整っていれば受講会場まで出向く必要なく気軽に参加できるので、今後もWeb研修を活用していきたいと思っています。

<実習指導で心がけていること>

実習生の学びたい思いに寄り添うことのできる実習指導者を目指したいと思っています。私がお世話になった実習指導者の方は私の学びたい思いに耳を傾け、可能な限り体験する機会を提供していただきました。実習生が感じた悩みや疑問を一緒に解決していけるよう、スーパービジョンの機会もできるだけ多くつくるように心がけていきたいです。

<実習指導のやりがい>

実習生を指導することで、自身の実践を振り返る機会になると思います。実習生が実習を通して医療ソーシャルワーカーや社会福祉士として、また福祉の現場で働いてみたいと思うきっかけになった時に、やりがいを感じられると思います。

<今後の目標や展望>

入職して3年目になりました。今年度は職場内のメンバーが変わり、職場における自分の立ち位置も大きく変わりました。今までは先輩方から学ばせていただいていたのですが、助言を求められる場面も増えてきています。社会福祉士として未熟な面が多々あるので、自分の専門性を高めるとともに、今後は後輩の育成にも積極的にかかわっていききたいと思っています。

～今年度は初めて Web で実習指導者講習会を行いました～

中信地区

氏名：長峰光代
所属：社会福祉法人中信社会福祉協会 みすぎの森



<Web実習を受講して感じたこと>

オンラインでの開催だったため、会場まで行かなければいけない研修よりも参加しやすかったです。私は自宅から参加をしたのですが、慣れない会場へ行くよりも、時間の面でも気持ちの面でも余裕が持てました。一方でやりづらかった点としては、画面を通してのコミュニケーションだったため、相手の反応などが分かりづらかったです。また、研修中にチャット機能を使う場面があったのですが、チャット機能の使用方法について事前にやり方などの説明があればありがたかったかなと思いました。

<実習指導で心がけていること>

私はこれから実習指導者として実習指導を行っていきます。自分が実習生の時にしてもらって嬉しかったこと、勉強になったことなどを今度は自分が実習生にしてあげたいと思います。ここで実習ができて良かった！と思ってもらえるような実習指導を心がけたいです。

<実習指導のやりがい>

実習指導未経験のため、これからやりがいを感じていきたいです。

<今後の目標や展望>

私は現在、実習をした施設とは異なる分野の施設で働いています。しかし、実習で学んだことや得たことは現在でも活かされています。入社4年目になりますが、時々学生時代の実習ノートを見返しています。そのくらい、学生時代の実習は中身が濃く、充実したものでした。実習生が実習を終え現場に出て、壁にぶつかったり悩んだりしたときに、実習で学んだこと、実習指導者に言われたことなどを思い出してもらえるような実習ができれば良いと思います。実習指導未経験の私ですが、これから実習指導者として、実習生とともに成長していきたいです。

南信地区

氏名：柘植健司
所属：社会福祉法人長野県社会福祉事業団 西駒郷



<Web実習を受講して感じたこと>

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、ZOOMでの研修となりました。操作方法などの戸惑いもありましたが、新しい学びの方法としてZOOMを活用した研修や、新しいコミュニケーション手段として今後広がる可能性があり、とても良い機会となりました。グループワークでは石川県や富山県、徳島県など他県の方の参加もあり、身近に情報交換することができWeb研修での良い効果が得られ、貴重な経験を得られたと思います。

<実習指導で心がけていること>

「おもしろいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく」
実際に実習指導の業務は行なっていませんが、ソーシャルワークの面白さや奥深さややりがいなどを、実習生と一緒に考えて考えながら、伝えていければと思います。

<実習指導のやりがい>

社会福祉士の役割や専門性などを改めて考える機会になり初心に戻ります。実習を受け入れることで、日常の業務のどこに専門性があり、何を伝えて行かなくてはいけないのか整理できて、業務を自己覚知する機会となります。実習生だけでなく、自身の業務の振り返りやサービスの質の向上につながっていくと感じます。

<今後の目標や展望>

これからも多くの仲間が広がっていければ良いと思います。新型コロナウイルスの影響で実習などの受け入れなども苦労していると思います。Webなどの新しいコミュニケーションや新しい工夫、知恵などを考えながら、お互いに学び続け、仲間が広がっていければ良いかなと思います。そのためにも自己研鑽を続けていかないと…。

赤い羽根共同募金における地域共生とは

宮 沢 想太郎 (長野県共同募金会)



先日、大学時代の先生から「共生」の意味について教えていただいた。「共生」とは元は福祉用語ではなく、生物学からきている言葉であるのだという。自然界では、共生が成り立っている。例えばヤドカリとイソギンチャクは、タコからヤドカリを守るために毒を持ったイソギンチャクが貝殻にくっつき、ヤドカリはヒトデからイソギンチャクを守るために移動手段になっている。このように、別々の生き物同士が互いを必要とし、弱いところを補い合いながら暮らしていくことを「共生」というのだという。

これは赤い羽根共同募金にも、そのまま当てはめて考えることができるのではないのかと感じた。赤い羽根共同募金の使い道は、一般的にはあまり知られていないが、募金した地域で行政や既存のサービスで対応できない問題を解決する活動のために使われている。つまり、多様な属性の人々が少しずつ力を出し合っ

て、同じ地域で支え合う仕組みになっている。現在社会問題が多様化してきており、共同募金の必要性は高まっているが、募金実績は右肩下がりである。この赤い羽根共同募金を地域共生のツールとして活かし続けるために、ただお金集めだけに執着するのではなく、今のニーズに対して適切に配分していくこと、ご寄付の使い道を県民の皆様へ伝えていき寄付者一人ひとりが納得して寄付できるような広報をすることを実現させたい。

*次号は、御代田町社会福祉協議会 横谷 貴大さんにバトンタッチします。

「信州ぐるっと！！ 特色ある福祉活動を紹介」

長野県下の子どもの居場所づくりを共に考える

小林 哲 男 (一般社団法人 ぶどうの丘代表)

松本地域子ども応援プラットフォーム運営委員として地域プラットフォーム立ち上げ時から運営に関わっています。その後、子どものさまざまな問題の解決を願い一般社団法人を立ち上げました。コロナ禍、これからの社会の変化に対応した子どものさまざまな問題を社会福祉士の視点（ソーシャルワーク・権利擁護・個と地域の支援）で一緒に考え活動しませんか？ソーシャルワーカーとしての豊富な経験と知識、そして熱い思いを求めています。

長野県次世代サポート課からこどもカフェのPR文をいただいております。ご紹介させていただきます。

県内には、子どもたちに学習支援や食事提供などのさまざまな取り組みを月1回以上行っている「信州こどもカフェ」があります。(令和2年9月時点：約120か所)

長野県では、運営団体や民生委員、民間団体などで構成する「信州こどもカフェ推進地域プラットフォーム」を県下10広域に設置し、情報交換や人材育成などを行うほか、信州こどもカフェの名称や所在地などが分かる「信州こどもカフェマップ」を作成し、県ホームページに掲載しています。「信州こどもカフェマップ」で検索してみてください。

子どもの居場所づくりにご関心のある方は「信州こどもカフェマップ」をご覧ください、活動の紹介や参加をしていただければと思います。

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<http://nacsw.jp>) をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場等	備考
11月21日・22日	成年後見人材育成研修③④	オンライン研修	
11月28日(出)	社会福祉士 統一模擬試験	在宅受験	
12月12日(出)	甲信越社会福祉士会連絡会議	オンライン会議	

◎ 入会状況 (2020年9月末現在) * 会員数：1,177人 入会率：27.19% 人口10万人あたりの会員数：57.44人

編集後記

私たち社会福祉士は、コロナ禍でも専門性を持って創造と工夫を繰り返さなければなりません。ヨガのポーズで「逆転のポーズ」というポーズがあります。お腹の部分を意識し、自身の集中力を高めると、身体がフッと浮き上がりまっすぐでいる瞬間があります。物事に立ち止まったとき、違う方向から見たり、自己を深めることで、新しい発見や違う見方ができる社会福祉士でありたいです。(E. M)